# テロ対策は名目、危険な法案

4/7 赤旗

## ストップ共謀罪

# 話し合いが罪とはゴメンだ

## 大集会参加者の思い

東京・日比谷野音

「話し合うことが罪になるなんてゴメンだ」。安倍政権が「共謀罪」法案の審議入りを強行した6日、廃案を求める「4・6大集会」に駆けつけた市民たちで、日比谷野外音楽堂（東京都千代田区）が埋まりました。国民が望む森友学園疑惑の解明には頬かむり。被害者が求める性犯罪に関する刑法改正の審議は後回し。なのに「共謀罪」法案を最優先にする…。そんな安倍政権の姿勢に憤り、集会で声をあげた人たちの思いは―。

「集まって話し合うということは、人間の基本。学校でもサークルでも話し合いから社会活動がはじまります。それが監視され、罪に問われることは人間社会の否定です」。集会開始の1時間前に野音にきた黒川朝子さん（66）＝神奈川県藤沢市＝は言います。

共謀罪反対の集会に参加した鄭恩珠（ジョン・ウンジュ）さん

野音がある日比谷公園は、ソメイヨシノが満開です。開会前に会場の外で、「桜が満開になるように共謀罪反対の声を花びらのシールに書いてください」とシール投票を呼びかけていた梅原真理子さん（69）と中西綾子さん（78）。横浜市から「全国シール投票の会」の仲間と一緒にきました。シールには「『テロ対策』は名目としか思えない。危険な法案だ。39歳男」などの書き込みが。

東京都世田谷区の藤井真由美さん（37）は高校の養護教員です。「話し合いが罪になると聞いて、共謀罪のことを勉強しなくてはと思って参加しました。本来のテロ対策ではないことに、きっと使われる」と危機感を持っています。

「許すな！共謀罪」のプラカードを掲げる新日本婦人の会東京都本部の（左から）岡林奈緒子さん、佐久間千絵さん、岡田尚子さん

新日本婦人の会東京都本部の岡林奈緒子さん（40）、佐久間千絵さん（46）、岡田尚子さんは、「ラインやツイッターの『いいね』で逮捕されるなんてありえない」「私のプライバシーと人権は私のもの。国が土足でずかずかと入ってくること自体が気持ち悪い」と怒りをのべました。

常石登志子さん（71）は、地元の神奈川県で共謀罪法案の賛否を問うシール投票をしています。「シール投票を始めた2月ごろは、半分の人が『よく知らない』に投じていました。法案の内容が広まるにつれて65％が反対に投じるようになりました」といいます。

東京都世田谷区の壷井須美子さん（71）は「森友学園問題をみても、日本を右傾化する政府ぐるみの動きがはっきりしてきました。サクラの花は咲いたけど、世の中暗いことばかりという気がします。めげたらおしまいという気持ちでがんばっています」と語ります。

鄭恩珠（ジョン・ウンジュ）さん（26）は、韓国からの留学生。「韓国で平和運動にかかわっていましたが、先輩や後輩の携帯が当局から盗聴されていました。共謀罪法案が成立すると日本も同じようになるかもしれません」

## メディア関係有志がアピール

共謀罪を考えるメディア関係有志は6日、東京都内で記者会見し、「共謀罪（テロ等準備罪）創設法案に反対する」緊急アピールを発表しました。会見には、新聞労連の小林基秀委員長、出版労連の大谷充委員長らが出席しました。

アピールでは、「法案の本質は、自由闊達（かったつ）であるべき表現やメディアを危うくし、自由で民主的な市民社会を掘り崩しかねない危険がある」と指摘。「話し合いやコミュニケーションの活動を犯罪として処罰するに等しい仕組みがつくられようとしている」「内心や思想・良心にも法が踏み込み、規制を加えることになる」と告発しています。

緊急アピールには、岡本厚・岩波書店社長、雑誌『世界』の清宮美稚子編集長、月刊『創』の篠田博之編集長ら言論・出版関係者33人が賛同しています。アピールは、首相官邸や衆参国会議員に送付します。